



沖縄の海底洞窟からマッドドラゴン（動吻動物）の新種 3 種発見 ～海底洞窟に隠れた生物多様性解明に期待～

海や川などの水域の砂や泥には様々な底生動物が生息しています。そのような動物のひとつである動吻（どうふん）動物は、体長 1 mm に満たない小さな海産無脊椎動物で、からだを覆う硬い外骨格や多くの棘を持つことから、英語で mud dragon（マッドドラゴン）=泥の竜と呼ばれています。これまで世界からおよそ 300 種、日本からは 21 種の動吻動物が報告されていますが、まだまだその生物多様性の全貌は明らかになっていません。

九州大学基幹教育院の山崎博史助教（責任著者）、東北大学の藤本心太助教、葛西臨海水族園の田中隼人博士らの研究グループは、2015 年 4 月に沖縄県伊江島にある海底洞窟で小型底生動物調査を行いました。これまで沖縄の海底洞窟からは、甲殻類やクモヒトデなどの数々の新種や希少種が報告されている一方、小型底生動物の報告は多くありません。洞窟内で採集した動物について詳細に研究した結果、動吻動物の新種 3 種が含まれていることが明らかになり、それぞれ *Echinoderes gama*、*Echinoderes kajiharai*、*Echinoderes uozumii* と命名しました（図）。

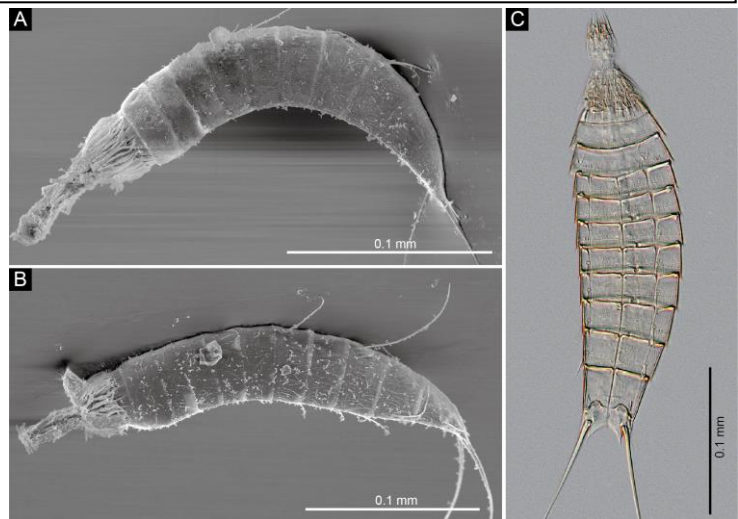
これは海底洞窟に暮らす動吻動物の記録として、沖縄からは 2 例目、世界では 9 例目の報告となります。しかし琉球列島には他にも多くの海底洞窟があり、まだまだ十分な調査がなされているとは言えません。今後の調査を通じて、さらに多くの動物種が見つかり、洞窟性動物群集の多様性理解へとつながることが期待されます。本研究は藤原ナチュラルヒストリー振興財団、日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (B) (15K18598) ならびに特別研究員奨励費 (25987) の支援を受けました。この成果は、2020 年 6 月 15 日 (月) (日本時間) に国際学術誌「Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom」に掲載されます。

研究者からひとこと：

一見、何も生物が暮らしていないような砂浜や泥底にも、実は多種多様な小型底生動物が暮らしています。今回は海底洞窟という特殊な環境からの新種報告ですが、私たちに身近な環境からも、実はたくさんの面白い動物を見つけることができます。肉眼で見えない彼らの研究はまだ始まったばかりで、今後もまだまだ多くの新種発見が期待できます。



調査前の船上にて(伊江島を背景に)。
(左から) 山崎助教 (九州大)、
藤本助教 (東北大)。



図：新種として発表した 3 種の動吻動物。

(A) *Echinoderes gama* の走査電子顕微鏡写真

(B) *Echinoderes kajiharai* の走査電子顕微鏡写真

(C) *Echinoderes uozumii* の光学顕微鏡写真。体長はそれぞれ 0.2–0.3 mm 程度。

【お問い合わせ】 基幹教育院 助教 山崎 博史

Mail: yamasaki@artsci.kyushu-u.ac.jp